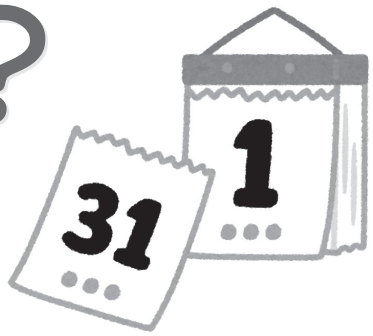


今日は、何記念日？

外販課 西口 晃平



ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、“毎日”には様々な記念日があります。そんな中で、今回は2月の中で私が気になった記念日を紹介しようと思います。

2月1日（テレビ放送の日）

1953(昭和28)年2月1日午後2時、東京・内幸町の東京放送会館から「JOAK-TV、こちらはNHK東京テレビジョンであります」の第一声とともに映像がブラウン管に流れました。これが、日本初のテレビの本放送。その後、続々とテレビ局が開設されていきます。

2月3日（節分の日）

節分（せつぶん）は、現在では立春の前日（太陽暦の2月3日か4日）をさしますが、もとはそれぞれの季節がおわる日、つまり立春、立夏、立秋、立冬の前日をいいました。節分につきものの「鬼はらい（やらい）」の行事は、中国の大饗（たいな）が源流（げんりゅう）で、おそろしい形相（ぎょうそう）の面をつけた呪師が疫鬼をおいはらう行事です。

2月5日（プロ野球の日）

1936(昭和11)年のこの日、全日本職業野球連盟の結成によりプロ野球が誕生しました。現チーム名でいうと、読売ジャイアンツ・阪神タイガース・横浜ベイスターズ・中日ドラゴンズ・オリックスブルーウェーブなど全7チームが参加していました。

2月11日（建国記念の日）

もともとは1872年（明治5）に、紀元節（きげんせつ）という名前ではじまった記念日で、「古事記」「日本書紀」の記述にもとづき、初代天皇とされる神武天皇が即位した日といわれています。当初は1月29日が祝日にさだめられていましたが、翌73年に、太陽暦の採用にともなう措置として、期日を2月11日に変更されました。その後、第二次大戦後に廃止されましたが、1966年（昭和41）に「建国記念の日」という名で復活し、翌年より実施されています。制定当初は、まだ成立したばかりの明治政府首脳が、天皇を中心とした国家支配体制の正当性を内外にしめす必要から制定されたと考えられていますが、現在の建国記念の日は、「建国をしのび、国を愛する心を養う日」とされています。

2月14日（バレンタインデー）

バレンタインデーは、田園と牧人の神ルベルクス（ファウヌスの別名）をたたえる古代ローマのルベルカリアの祭（2月15日）が起源とされており、この祭りが、兵士の自由結婚禁止政策に反対したバレンタイン司教が、ローマ皇帝の迫害により西暦269年に殉教した日を記念した祭日（2月14日）とむすびつけられて出来たものです。その後、聖バレンティヌスは恋人たちの守護者とされ、この日は恋人たちの愛の誓いの日となったのです。日本では1958年頃より流行しはじめ、お菓子メーカーの努力によって、女性から男性にチョコレートを贈るという、日本独自の習慣が生まれました。

2月23日（天皇誕生日）

2月23日は、日本国および日本国民統合の象徴で、令和時代の天皇陛下である徳仁（なるひと）天皇の誕生日です。徳仁天皇（→第126代天皇）は今上天皇（きんじょう てんのう）とも呼ばれ、今上（きんじょう）とは今現在・在位中の皇帝や天皇を指す言葉です。また、天皇に対して敬意を表す敬称（けいしょう）は「陛下（へいか）」で、公的には「天皇陛下」と呼ばれることが多い。なお、天皇陛下が崩御（ほうぎょ→天皇・皇后・皇太后・太皇太后の死亡を表す最高敬語）後は、元号を前に付けて〇〇天皇と呼ぶことが多い。例：明治天皇、大正天皇、昭和天皇

今回は有名な2月の記念日を紹介しましたが、他の日には聞いたことのないものや、同じ日でも今回紹介できなかった様々な記念日があります。皆さんも話のネタに一度調べてみてはいかがでしょうか。また次回の投稿でも紹介していこうと考えていますので、楽しみに！

アポロ新聞

おみくじの雑学

リビングサービス課 北田 祥一



みなさん初詣に行った際におみくじは引かれましたか？ 今回は『おみくじ』の雑学についてご紹介をさせていただきます。まずはクイズを！

おみくじを引いた後に境内の木や枝に結ぶ理由は？

- A. 結果によって捨てる人が多いため C. 木の精霊に浄化してもらうため
B. おみくじの開祖が定めたルールのため D. 神様へくじの結果を報告するため

答えは記事内で解説していますので、ぜひ探しながら読んでみてくださいね！

おみくじで大吉や大凶の確率は？ 種類はどれくらいある？

今後の運命を占うのがおみくじ。子供はもちろんのこと、おみくじの内容で大人も一喜一憂してしまいますよね。特に初詣でおみくじをひく機会は多いと思いますが、大凶などを引いてしまった場合はとても心配になってしまいます。ところで、大凶ってなかなか見かけないですよね？ そこで、おみくじの種類と、それぞれがどれくらいの確率で引けるのかを解説します。

おみくじの種類

確率の話をする前に、まずはおみくじの種類について解説します。通常のおみくじは7段階に分かれていて、縁起がいいとされる順番に並べ替えると以下の通りになります。

大吉 > 中吉 > 小吉 > 吉 > 末吉 > 凶 > 大凶

今回、ご紹介はしませんが、神社によって12段階になっている場合もあるそうです。

それぞれのおみくじの確率

一般的である7段階のおみくじの確率について調査してみました。

大吉:約22% 中吉:約8% 小吉:約13% 吉:約28% 末吉:約15% 凶:約13% 大凶:約1%

真ん中の『吉』が出やすいという事は分かりましたが、大吉が出づらいのかと思いきやかなりの確率でひけるものなのですね！ 4～5回引けば1度は大吉が引ける確率です。かたや、大凶が約1%という極端に低い確率になっています。これには理由があり、大凶が出てしまうと縁起が悪かったり、気分の害する人がいて、結果として神社への客足が遠のいてしまうという理由から、そもそもおみくじに大凶を入れていない神社が多いからです。

もともとはルールがあった？

実はおみくじにはもともとルールがあり、それに基づいて吉や凶の割合が分配されていたそうです。おみくじを最初に作ったのは良源というお坊さんでした。良源が『元三大師御籤帳』に記した内容には『大吉、吉、凶が80%で、それ以外の分配は各神社で決めて良い』とあったそうです。浅草寺などはいまだにルールに基づいて分配されているため凶がよく出るそうですが、今は厳密にこのルールを守っている神社は少ないそうです。

おみくじを木に結ぶ理由は？

おみくじの結果が良かった場合は財布などにしまったりしてお守りにします。しかし、おみくじの結果が悪かった場合は境内の木や枝や紐に結び付けますよね！ これにはちゃんとした理由があるのです。神社の木々には霊力があるため、木の精霊が悪い運勢を浄化してもらう事を目的としているのです。末吉などは判断に困りますが、内容が自分にとって微妙だった場合は結ぶといった判断をするといよいでしょう。